

LIFE TIPS 家庭の小技

洗濯編

白さがよみがえる衣類の黄ばみ対策!!

ちゃんと洗濯しているのに、衣類の襟元や袖口に現れる、いやーな「黄ばみ」。

原因は、繊維の奥に残った「皮脂」。これが酸化して黄ばみとなります。ならばクリーニングに出して解決、と思っても、時間が経つとやっぱり黄ばんだという経験談をよく聞きます。

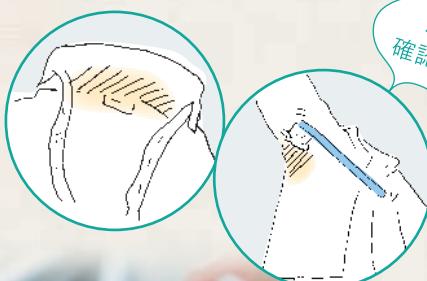
そこで、家庭にもある「あるもの」で洗う裏技。しかも3か月に1回、よく着る服でも月に1回行えば、黄ばみ予防に! 黄ばんでしまった思い出の洋服も、真っ白に復活できます!

なぜ 洗濯しても 黄ばむの?

実は、洗濯洗剤や漂白剤を使って水洗いしても、皮脂の汚れを完全に落としきるのは難しいんです。洗い方や洗剤の種類にもよりますが、汚れの2~4割ほど、繊維に残ってしまうと考えられています。着用→洗濯を繰り返す中で、皮脂汚れが蓄積し、それがしだいに酸化して黄ばみとなります。湿度や温度が高いなどの「黄ばみやすい」環境なら、洗濯して4日目ごろから黄ばみ始めます。

なぜ ドライクリーニング しても 黄ばむの?

ドライクリーニングは、有機溶剤という油の一種で洗うもので、皮脂を落とすことが得意。ところが時間が経つと、黄ばみが現れることがあります。実はドライクリーニングは、水溶性のタンパク質の汚れを落とすことが苦手。繊維に残ったタンパク質が酸化して黄ばみになることがあるのです。



1 minute

※用量を守ってください

- ① 台所用洗剤(濃縮タイプ)
(通常タイプの場合は大さじ2)
- ② 酸素系漂白剤(粉末タイプ)
大さじ1/2
- ③ 水 大さじ2
- ④ 洗濯洗剤 適量



用意するもの

家庭で「皮脂」まで落とす



生地を傷めるので2時間以上つけない



オススメ酸素系洗剤
漂白効果が高くなった「ワイドハイターEXパワー」は定番人気。香りがよくおしゃれ着も安心な「オールバーバスブリーチ」はギフトにもおすすめです。

白物には塩素系、色柄物には酸素系の漂白剤を使うのが一般的。ほかの洗剤と混ぜても安心で、手軽で使いやすい酸素系のもので十分にやさしく洗濯を行なう。洗濯洗剤を使って、通常どおりに洗濯を行う。(黄ばみの程度に合わせて、置いておく時間は調節してください) 漂白剤を使つて、通常どおりに洗濯を行う。※すぎは十分に行つてください。

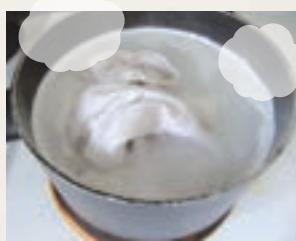
ポイント1
温 度

ポイント2
つけおき

酸素系の漂白剤を上手に活用しよう!

汚れ落とし
漂白ワザ

木綿(コットン)・麻(リネン)



◎ 固形石けんまたは粉石けん

「洗剤」じゃなく
「石けん」を使うのがポイント!



大きな鍋に、水1リットルに対して小さじ2杯の粉石けん（固体石けんを削ってもいい）を入れ、10～30分ほど煮ると、黄ばみが落ちます。

汗ジミ防止に



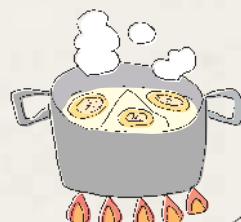
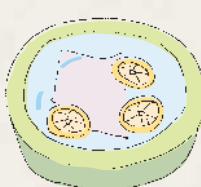
◎ 洗濯のり(スプレー)



あらかじめ、わきの下や襟裏にスプレー式洗濯のりを吹きかけておくと、汗ジミ防止になります。

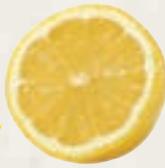
黄ばみ対策色々

ハンカチなどの小物



◎ レモン

ハンカチや靴下などの漂白には、漂白剤よりも生地を傷めないレモンによる漂白がお勧めです。



靴下一組またはハンカチ1枚につき、レモンの輪切り2～3切れが目安です。洗面器に湯を張り、レモンの輪切り2～3切れを浮かべて10分ほど煮てからすすぐと黄ばみが落ちていきます。

漂白できない生地は…



◎ 重曹

色ものや柄物など、黄ばんでも漂白剤が使えないものは、襟や袖、わきの下など部分的に歯ブラシにつけた重曹でこすり洗いします。その後、水洗いかウルは水で濡らした布でふき取ります。



脇汗対策グッズの選び方

エチケットアイテム「制汗剤」も黄ばみ汚れの原因かも?!

衣類の黄ばみを未然に防ぐには、汗をこまめに拭き清潔を保つのが一番ですが、他にも、汗パッドやインナーを使用したり、良い汗をかくために適度の運動や食事の見直しも必要かもしれません。「制汗剤」や「デオドラント剤」を使用して防ぐこともおすすめです。ただし、制汗剤の成分が体質にあっていない場合、まれに脇汗が付着した部分が黄ばむことがあります。「制汗剤」や「デオドラント剤」は種類も豊富でそれぞれにメリット・デメリットがあります。シーンに合わせて上手に使い分けましょう。

選び方の目安

タイプ	使い方	メリット	デメリット
スプレー	噴霧	衛生的で清涼感がある	制汗効果が弱い
シート	拭き取る	手軽でベタつきがない	持続力が弱い
ロールオン	直塗り	外出先でもムラなく塗れる	塗布後乾かす必要がある
スティック	くり出して直塗り	密着力があり持ち運びに◎	ベタつく場合がある
クリーム・ジェル	手にとって塗る	密着力が高い	外出先では使いにくい

